

《教育講座 II》

1. 腹部の解剖

桑 鶴 良 平

(東京女子医科大学 放射線医学教室)

腹部は、腹膜に覆われる腹腔とその背側に位置する後腹膜腔に大別される。後腹膜腔は、更に前・後腎傍腔と腎周囲腔に分けられる。腹腔内には、胃・小腸・大腸などの腸管や肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓などの臓器が含まれる。後腹膜腔の中で前腎傍腔には十二指腸、膵臓、上行結腸、下行結腸が含まれ、腎周囲腔には腎臓、副腎が含まれ、後腎傍腔には実質臓器は含まれない。本講座では、腹腔および後腹膜腔の解剖および病変についてCT

画像を中心に以下の4つの項目について正常解剖を示すと共に、異常像についてもCT画像にMR・PET/CT画像を含めて解説する。

- 1) 腹腔・腹膜の解剖とその病変について、
- 2) 腹腔内臓器（肝臓、胆嚢、腸管）の解剖とその病変について
- 3) 後腹膜腔の解剖とその病変について
- 4) 後腹膜臓器（腎臓、副腎、膵臓、大腸）の解剖とその病変について

2. 骨盤の解剖

松 尾 義 朋

(西台クリニック 画像診断センター)

骨盤領域の画像診断はMRIの普及により急速に進歩した。MRIはその高いコントラスト分解能により子宮、卵巣や前立腺といった骨盤内臓器の内部構造を明瞭に描出し、病変の検出や進展度診断に有用な情報をもたらす。骨盤内臓器の診断においてはMRIから得られる情報量はCTから得られるそれとは雲泥の差があり、PET/CT時代においてもMRIは欠かすことのできない検査法と考える。骨盤内臓器、特に子宮、卵巣、前立腺の

画像解剖について、MRI所見を中心に概説し、適切な撮像シーケンス、撮像断面の選択における考え方についても述べる。次に画像解剖の基本的知識に基づくMRI診断のプロセスについて、いくつかの代表的疾患を供覧しながら解説する。また、FDGの高集積を認める代表的疾患や診断上のピットフォールともなりうるFDGの生理的集積についてもMRI所見と対比しながら供覧する。